

2006 年度

科目名 国文学特殊研究 I	対象学科・学年 研究科国語(前)1 回生 研究科国語(後)1 回生	担当者 鈴木 利一
授業テーマ 上代挽歌史の研究		
授業の概要と目標 萬葉集前史とも言う古事記・日本書紀歌謡から萬葉歌への流れを挽歌作品の読み解きからたどりたい。		
評価方法 講義への出席状況（40%）、課題の提出状況（40%）、課題に取り組む姿勢（20%）等を勘案し、総合的に判断します。		
テキスト 講義中に配布する、教材・資料を用います。	著者	出版社
参考書	著者	出版社
授業スケジュール・内容 本年度は、挽歌の成立と展開を各作品の読みに即してたどります。講義形式は演習方式とし、発表担当者の作成した資料に基づいて、討議を重ねる中で、当該作品への読みと理解を深めていきたいと考えています。 前期講義では、古事記・日本書紀に収録された歌謡中の挽歌作品を中心に、後期講義では萬葉集収録歌の挽歌作品を読み進めます。講義スケジュールと扱う作品は以下の通りです。 【前期】 ①上代挽歌史概説（1～3 週） ②古事記歌謡の挽歌（4～10 週） ③日本書紀歌謡の挽歌（10～15 週） 【後期】 ①天智天皇挽歌群（1～5 週） ②天武朝の挽歌（5～10 週） ③持統朝の挽歌（10～15 週） 上代は、残されている文献資料が限られているため、発表担当者は、可能な限り資料探査に努めて下さい。その課程では、遣唐使等によって舶載された可能性のある漢籍へのアプローチも必要となります。また、新たな資料探査法としてインターネット上の図書館・研究期間のサイトを利用することも必要になってきます。そうしたオンライン情報や電子データの取り扱いについても、機会のあるごとに解説し指導していく予定です。さらに、民俗学や歴史学・考古学等の関連諸学による成果にも触れ、総合的な視点から上代日本文学をとらえる能力を養っていきます。		